

取組名	認知症ケアパス			
取組内容 (目的等)	認知症の容態の変化に応じて福祉・医療・介護等が有機的に連携し、適時・適切に切れ目なく提供されることで、認知症の人やその家族が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができることを目的に、支援の流れを整えるとともに、その見える化により市民へ周知する。			
背景・ H30 までの実績等	下記「認知症ケアパスに係る年表」参照			
評価・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護の地域資源が両方掲載されており、マップとして視覚的に表記されていること、高齢者に係る事業の情報も同時に得られる等の一元的であるため、支援する側の媒体の使いやすさ、それによる支援を受ける側の理解の促進に有効と考えられる。 ・市民へファーストタッチとしての媒体として機能している反面、「認知症の人の容態に応じた」というケアパスの本来の機能が十分に発揮できていない。 			
R1 以降 取組事項	地域包括ケア推進会議の意見を踏まえ、内容の見直しを行い、年1回「みよし市高齢者福祉マップ」として発行する。			
評価区分	仕組み・実施体制	実施過程	事業実施量	事業成果
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター推進員 ・市(長寿介護課) ・地域包括ケア推進会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容精査を毎年度秋までに行う。 ・11月の地域包括ケア推進会議に内容変更に関する議題を提案する。 ・年度末に翌年度版として発行する。 ・市、各包括に在庫を置き、必要な人へ説明しながら配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進会議 1 回以上、作業部会 2 回以上の見直し議論を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉計画兼介護保険計画作成基礎アンケートで「サービスを知らない」を理由とするサービス未利用 0%とする。
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市(長寿介護課)配置の推進員が情報を集約し、掲載内容を精査する。 ・各地域包括支援センター推進員は、担当取組に関する情報、PR項目等を精査する。 			

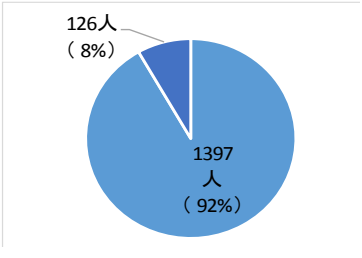
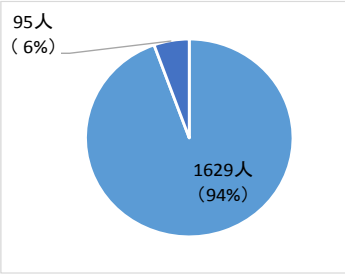
認知症ケアパスに係る年表

年	取組事項(概要)	取組事項(詳細)・実績等
H27	みよし市版認知症ケアパス作成	従来「みよし市高齢者福祉マップ」として配布していた媒体を冊子化し、高齢者福祉事業と認知症の人やその家族への支援事業を追加してみよし市の認知症ケアパスとして作成した。
H28	同ケアパスに医療機関情報を追加	市内の医療機関に関する情報(小児科、産科、婦人科を除く)を追加した。
H29	日常生活圏域ごとのページ構成に変更	日常生活圏域の分割に伴い、介護事業所、医療機関の資源マップページを全体版に加えて、日常生活圏域ごとのページ構成を追加した。
H30	歯科医院、薬局に関する情報を追加	歯科医院、薬局を地図上にマッピングし、歯科医師会の連絡先を裏表紙に追加した。

取組名	認知症サポーター			
取組内容 (目的等)	認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職域で、認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けしながら援助を行い、自分の日常生活の中で認知症への理解と支援の心をもって行動してもらうことを目的とする。認知症サポーターの活動の場の整備やフォローアップ講座を実施する。			
背景・ H30 までの 実績等	下記「認知症サポーターに係る年表」参照			
評価・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を小学校、中学校、高校、大学で定期的を開催するなど、学生に対する認知症サポーター養成講座を開催する機会が多いが、一般市民や企業等に向けての開催が少ないのでPR活動をする必要がある。 ・地域包括支援センター職員がキャラバン・メイトとして小学校等の認知症サポーター養成講座で講師として活動することができたが、キャラバン・メイトとして登録している人の中には、現在活動をしていない人も多く、そういった潜在的なキャラバン・メイトの意向確認をすることで掘り起こしを行い、活動できる人を増やして行く必要がある。 ・平成30年度に認知症サポーターフォローアップ講座を開催したが、単発での開催となっており、その後の地域での活動にもつながっていないことから、認知症サポーターフォローアップ講座を継続的に開催し、受講したサポーターを認知症カフェなどの地域活動に結びつける必要がある。 			
R1 以降 取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ①一般市民・企業向けの認知症サポーター養成講座の開催数を増やす。 ②認知症サポーターフォローアップ講座を開催し、認知症サポーターを認知症カフェなどの地域活動につなげる。 ③現在登録しているキャラバン・メイトに向けてアンケート調査を実施し、今後のキャラバン・メイトの活動に繋げる。 			
評価区分	仕組み・実施体制	実施過程	事業実施量	事業成果
評価指標 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員 ・きたよし地区地域包括支援センター ・認知症サポーターキャラバン事業委託先(翔寿会) ・市(長寿介護課) ・地域包括ケア推進会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への周知活動(R1.5月～) ・金融機関、商工会等への周知活動(R1.7月～) ・一般市民向け認知症サポーター養成講座の計画(R1.8月～) ・一般市民向け認知症サポーター養成講座の開催(R1.10月～11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民向け、企業向けの認知症サポーター養成講座を5回以上開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民、企業の認知症サポーターの数が増える。
役割分担 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員は、地域での周知活動を行う。 ・長寿介護課は企業等に向けての周知活動を行う。 ・認知症地域支援推進員と長寿介護課は、一般向け認知症サポーター養成講座の開催について検討する。 			

<p>評価指標 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員 翔寿会（認知症サポーターキャラバン事業委託先） 市（長寿介護課） 地域包括ケア推進会議 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターフォローアップ講座の企画（R1.9月～） 講座開催の周知（R1.11月～） 認知症サポーターフォローアップ講座の開催（R1.12月～R2.1月） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度中に認知症サポーターフォローアップ講座を1回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターフォローアップ研修受講者が認知症カフェに参加する。
<p>役割分担 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員は認知症サポーターキャラバン事業委託先（翔寿会）と情報共有しながら講座の企画・開催をする。 認知症地域支援推進員と長寿介護課は、講座受講後の活動支援について検討を行う。 			
<p>評価指標 ③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員 認知症サポーターキャラバン事業委託先（翔寿会） 市（長寿介護課） 地域包括ケア推進会議 	<p>【R1年度中】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート内容を検討する。 アンケートを配布、実施する。 <p>【R2年度中】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの集計、リスト化をする。 	<ul style="list-style-type: none"> みよし市で登録しているキャラバン・メイト全数にアンケート調査表を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラバン・メイトの活動人数が増える。
<p>役割分担 ③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症作業部会、認知症サポーターキャラバン事業委託先（翔寿会）、長寿介護課でアンケートの検討・作成をする。 長寿介護課、認知症サポーターキャラバン事業委託先（翔寿会）が、キャラバン・メイト登録者にアンケート調査を行う。 			

認知症サポーターに係る年表

年	取組事項（詳細）・実績等																				
<p>H29</p>	<p><認知症サポーター養成講座 年齢別実績></p> <table border="1" data-bbox="416 1397 879 1653"> <tr> <td>小学生</td> <td>634</td> <td rowspan="4">1397</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>237</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>257</td> </tr> <tr> <td>職域</td> <td>81</td> <td rowspan="2">126</td> </tr> <tr> <td>地域一般</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>合計(人)</td> <td></td> <td>1523</td> </tr> </table> 				小学生	634	1397	中学生	237	高校生	269	大学生	257	職域	81	126	地域一般	45	合計(人)		1523
小学生	634	1397																			
中学生	237																				
高校生	269																				
大学生	257																				
職域	81	126																			
地域一般	45																				
合計(人)		1523																			
<p>H30</p>	<p><認知症サポーター養成講座 年齢別実績></p> <table border="1" data-bbox="416 1778 879 2033"> <tr> <td>小学生</td> <td>671</td> <td rowspan="4">1629</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>514</td> </tr> <tr> <td>職域</td> <td>45</td> <td rowspan="2">95</td> </tr> <tr> <td>地域一般</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>合計(人)</td> <td></td> <td>1724</td> </tr> </table> 				小学生	671	1629	中学生	164	高校生	280	大学生	514	職域	45	95	地域一般	50	合計(人)		1724
小学生	671	1629																			
中学生	164																				
高校生	280																				
大学生	514																				
職域	45	95																			
地域一般	50																				
合計(人)		1724																			

取組名	認知症カフェ			
取組内容 (目的等)	認知症の人やその家族が、地域の人や専門職と相互に情報共有や理解し合える「認知症カフェ」を開催することで認知症の人やその家族の精神的負担が軽減されることを目的とする。			
背景・ H30 までの 実績等	下記「認知症カフェに係る年表」参照			
評価・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェの数、参加人数は増えている。 ・認知症カフェがまだ開催できていない地域がある。 ・認知症カフェの概念、機能等が見える化できていない。 ・開催されていない地域のニーズ等を把握する必要性がある。 ・市内の既存の認知症カフェの課題整理や開催情報の共有が必要である。 			
R1 以降 取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 認知症カフェの概念、機能等を整理し、既設カフェの情報とともに見える化する。 ② 認知症カフェ開設に関係する場所や人材の把握を行う等の基盤整備を行い、新規開設を支援する。 			
評価区分	仕組み・ 実施体制	実施過程	事業実施量	事業成果
評価指標 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター推進員 ・市(長寿介護課) ・なかよし地区地域包括支援センター ・地域包括ケア推進会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・概念等の素案を作成し、作業部会で検討し、原案とする。(～10月) ・11月の地域包括ケア推進会議で議論する。 ・議論を踏まえ、再度検討する。(～1月) ・市外の認知症カフェの情報を収集する。(～1月) ・収集した情報を見える化する。(～1月) ・2月の地域包括ケア推進会議で決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業部会での議論4回以上、地域包括ケア推進会議での議論を2回行う。 ・市外の情報を10か所以上収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2.2の推進会議のみよし市版の認知症カフェの概念、機能等見える化ができる。
役割分担 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・素案づくりは、なかよし地区地域包括支援センター、市が行う。 ・原案までの検討、決定までの検討は、作業部会が行う。 ・市外の認知症カフェの情報収集は、作業部会出席者で分担し、収集した情報は、なかよし地区地域包括支援センターが総括する。 ・既存の認知症カフェの見える化のための資料は、日常生活圏域ごとに担当地域包括支援センターの推進員を中心に作成する。 ・認知症カフェの概念等の決定は、地域包括ケア推進会議の意見を聞いた上で、市が行う。 			

評価区分	仕組み・実施体制	実施過程	事業実施量	事業成果
評価指標 ②	<ul style="list-style-type: none"> 各地域包括支援センター推進員 市(長寿介護課) なかよし地区地域包括支援センター 地域包括ケア推進会議 第1層・第2層生活支援コーディネーター 認知症サポーター事務局 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域包括支援センター推進員は第1層第2層生活支援コーディネーターと下記①～③の情報を共有する。 〈共有内容〉 ①空き場所、その利用条件等 ②地域アセスメント情報(地域毎の人口、高齢化率等) ③ボランティア等の人材情報 きたよし地区地域包括支援センターの推進員は認知症サポーター事務局からボランティア(養成講座修了者等)について情報を収集する。 各地域包括支援センターの推進員は、情報を元に働きかけ、開設支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2層生活支援コーディネーターと推進員の情報共有は、地域包括支援センター内で行い、その情報の共有のための作業部会を年3回程度行う。 空き場所、資源情報をリスト化する。(R2.3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活圏域ごとに2か所以上の認知症カフェを開設する。(R3.3月)
役割分担 ②	<ul style="list-style-type: none"> 各地域包括支援センターの推進員は、第2層生活支援コーディネーターとカフェ開催となり得る空き場所等の情報、地域の情報を共有する。 なかよし地区地域包括支援センターは、各地域のカフェ開催情報(企画書等)、地域アセス情報を市と共有する。 各地域包括支援センターは、共有した情報を参考に、開催支援を行う。 			

認知症カフェに係る年表

年	取組事項(詳細)・実績等			
H29	各地区の認知症カフェ開催状況			
	地区	カフェ名	回数	参加人数(延)
	きたよし地区	認知症カフェオリーブ	12回	216人
	なかよし地区			
	みなよし地区			
	合計		12回	216人
H30	地区	カフェ名	回数	参加人数(延)
	きたよし地区	認知症カフェオリーブ	12回	216人
	なかよし地区	なかよしカフェ(H30.12月まで)	7回	85人
	みなよし地区	みなよしカフェ	12回	127人
		オレンジ茶房	6回	17人
	合計		37回	445人

取組名	認知症初期集中支援チーム			
取組内容 (目的等)	認知症の人（疑いを含む。）やその家族に早期に介入し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目的に設置する。 チーム員は、認知症サポート医、一定の経験を有する医療系・介護系の多職種で構成し、チーム員会議等を通じて、多職種が連携して早期の支援を行う。			
背景・ H30 までの 実績等	下記「認知症初期集中支援チーム係る年表」参照			
評価・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム員会議の参加者が、医師、保健師、看護師、薬剤師、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、障がい福祉の相談支援専門員など、多職種で構成されており、多面的に支援の方向性を検討する体制をとっている。 ・主対応者として訪問対応できるチーム員が不足している。 ・市民や関係機関からの相談件数が少ない。 ・地域包括支援センターの支援活動と、チーム員の支援活動の違いについて整理できていないため、地域包括支援センターから相談としてつながらない場合がある。 ・関係機関や市民の、チームについての認知度が低い。 			
R1 以降 取組事項	①チーム員になるための伝達研修を実施する。 ②関係機関（医療機関やケアマネジャー等）、市民へ普及啓発を行う。			
評価区分	仕組み・実施体制	実施過程	事業実施量	事業成果
評価指標 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター推進員 ・みなよし地区地域包括支援センター ・市(長寿介護課) ・認知症サポート医 ・地域包括ケア推進会議 ・市役所研修室 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の企画書の作成 (R1.7月) ・講師調整、依頼 (R1.8月) ・研修案内作成 (R1.9月～) ・伝達研修実施 (R1.11～12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・R1 年度に伝達研修を 1 回実施する。 ・各関係機関（チーム員会議に参加している機関）から 1 名以上研修に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム員として活動できる人数が増える。 ・地域包括支援センターの支援活動と、チーム員の支援活動の違いをチーム員が理解し、活動につなげる。
役割分担 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局（みなよし地区地域包括支援センター）が伝達研修を主催する。 ・各地域包括支援センターのチーム員は、新たにチーム員となる職員のフォローを行う。 ・伝達研修の参加は、地域包括ケア推進会議団体で選出する。実際にチーム員会議等に出席する可能性が少しでもあるのであれば、参加を検討する。 			

<p>評価指標 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター推進員 ・みなよし地区地域包括支援センター ・市(長寿介護課) ・市の広報誌、ホームページ ・みよし市ケアマネジャー連絡会 ・認知症初期集中支援チーム統括保健師 	<p>【R1 年度中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みよし市ケアマネジャー連絡会等でチームの実績と取り組み事例を報告し、活動の周知を行う。 <p>【R2 年度以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向けの啓発方法を検討する。(広報誌・チラシ等の見直し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・R1 年度中に、チームの実績と取り組み事例の報告を、みよし市ケアマネジャー連絡会等で 1 回行う。 ・広報掲載を年に 1 回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数を前年度より 1 件以上増やす。
<p>役割分担 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発に係る広報掲載、ホームページの修正等は、事務局（みなよし地区地域包括支援センター）が行う。 ・市民からの相談は、市、各地域包括支援センターが適切に対応する。 ・事例報告の機会は、みよし市ケアマネジャー連絡会とみなよし地区地域包括支援センターで調整する。 ・事例報告は、認知症初期集中支援チーム統括保健師が行う。 			

認知症初期集中支援チーム係る年表

年	取組事項（詳細）・実績等				
H 2 9	相談件数	支援決定件数	コアメンバー会議	チーム員会議	支援終結件数
	17 件	6 件	8 回	11 回	4 件
H 3 0	相談件数	支援決定件数	コアメンバー会議	チーム員会議	支援終結件数
	13 件	6 件	5 回	12 回	3 件